

H29 シカ年度エゾシカ捕獲事業案(遺産地域内)

A. 知床岬地区

※第3期管理目標：知床岬先端部の約3.2km²(モニタリングユニット M 00)における厳冬期の航空調査によるエゾシカ発見密度を 5~10 頭/km² 以下にする。

1. 経緯・課題

- ・H29 シカ年度は、H19 シカ年度より 11 シーズン目の捕獲。仕切柵整備からは 7 シーズン目。
- ・H19 シカ年度以降、航空カウント数は大幅に減少しており、捕獲の成果と推測される。一方で捕獲数は、仕切柵設置直後以外は越冬数の変動に連動しながら全体的に減少傾向にあり、生息密度低下と生残個体のスマート化による捕獲効率低下に直面している(図 3-2-1-1)。
- ・H28 シカ年度の捕獲終了時点の推定生息密度は、15.9 頭/km²となり、H29 シカ年度からの第3期計画管理目標の 5 頭/km² は未達成。
- ・H28 シカ年度の厳冬期(3月9~10日)にヘリコプターを移動手段として実施した大人数(17名)の捕獲では、34 頭(前年同期3頭)を捕獲。5月17~19日に実施した少人数(5名)の待ち伏せ狙撃では、合計3頭を捕獲した。
- ・5月の捕獲実施時には、知床岬先端部においてシカをほとんど発見できず。
- ・年によっては南側(ポロモイ・カプト岩・ペキンノ鼻等、図 3-2-1-2)からの流入が多く、厳冬期の捕獲数が増加(H26 および H28 シカ年度)。5月の捕獲数は分散・移動のため伸びない。H26 シカ年度 5~6 月の捕獲数(計 31 頭)は例外的だった可能性あり。

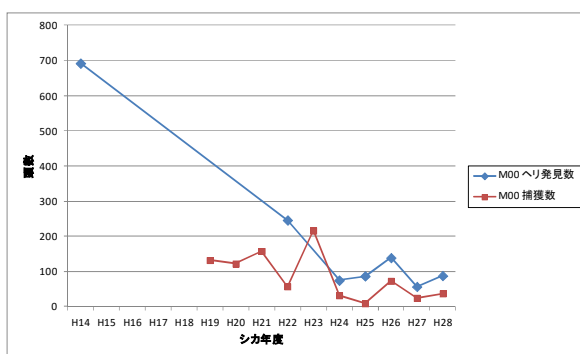


図 3-2-1-1. 知床岬地区(モニタリングユニット M00)における航空調査によるエゾシカ発見数と捕獲数の推移

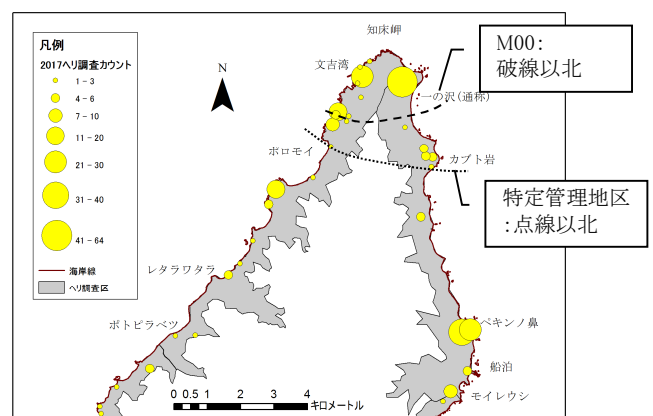


図 3-2-1-2. 2017 年航空調査におけるエゾシカ発見位置(特定管理地区: 96 頭、M 00: 79~88 頭)。

2. 方針

- ・H28 シカ年度と同規模の巻き狩り（15名程度、現地1～2泊）を厳冬期に1回実施する。
 - ・流氷開け直後の少人数の滞在型待ち伏せ捕獲（5～6泊）を、4月中に1回程度試行する。仕切柵末端部の太いシカ道に丈夫な網を仮設し、シカが逃走時に駆け抜ける経路を撃ちやすいラインに誘導することを試みる。
- ※H30 シカ年度以降の知床岬における厳冬期の大人数捕獲については、毎冬実施する航空カウント調査の結果や他の時期・手法による捕獲の成績をふまえて、隔年で実施することも検討する。

※捕獲目標頭数合計：約20頭

【H28 シカ年度実績及び第3期管理目標等を踏まえ設定】

3. 捕獲事業内容案（知床岬地区）

①. 流水期 へり捕獲（中規模隊 宿泊） 1回（H28 シカ年度と同じパターン）

- 期間： 2～3月に1回（航空カウント調査終了後）。1～2泊。
- 人員規模： 15人程度
- 実施方法： 仕切柵を使った巻き狩り

②. 海明け後 船捕獲（小規模隊 5～6泊） 1～2回（新パターン）

- 期間： シカの分散前の4月に1～2回。1回5～6泊程度
- 人員規模： 射手2～3人程度（+ 補助用の網）
- 実施方法： 草原上狙撃、林縁・森林内待ち伏せ狙撃、仕切柵末端付近のシカ道での待ち伏せ捕獲
- 個別の課題： 航路や港湾を塞ぐ流氷により4月の実施は困難な年が多いこと、登山者や漁業者に対する周知や安全対策、ヒグマ対策、従事者のコンディション維持（宿泊時の暖房等の設備）

*死体回収は、最終日または後日船により、日帰りで実施。

B. ルサー相泊地区

※第3期管理目標:モニタリングユニット R13 の約 24.68km²における航空調査によるエゾシカ発見密度を 5 頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- ・H28 シカ年度はルサー囲いわな（7年目）で2頭、ルサーくりわな（1年目）で11頭、合計13頭を捕獲。災害通行止めのため、相泊囲いわなと流し猟式SSは実施できず。
- ・H28 シカ年度の航空カウント数はR13で70頭（2.8頭/km²）。第3期管理目標の5頭/km²以下を暫定的に達成済み（R13 = 航空カウント調査区 U12 南部 + U13 + U13s = 24.68 km²）。
- ・モニタリングユニット R13（ルサー相泊地区）の北側に隣接している R12（ウナキベツ地区）の海岸線において、H28 シカ年度に船舶利用捕獲を試行し、66頭を捕獲。

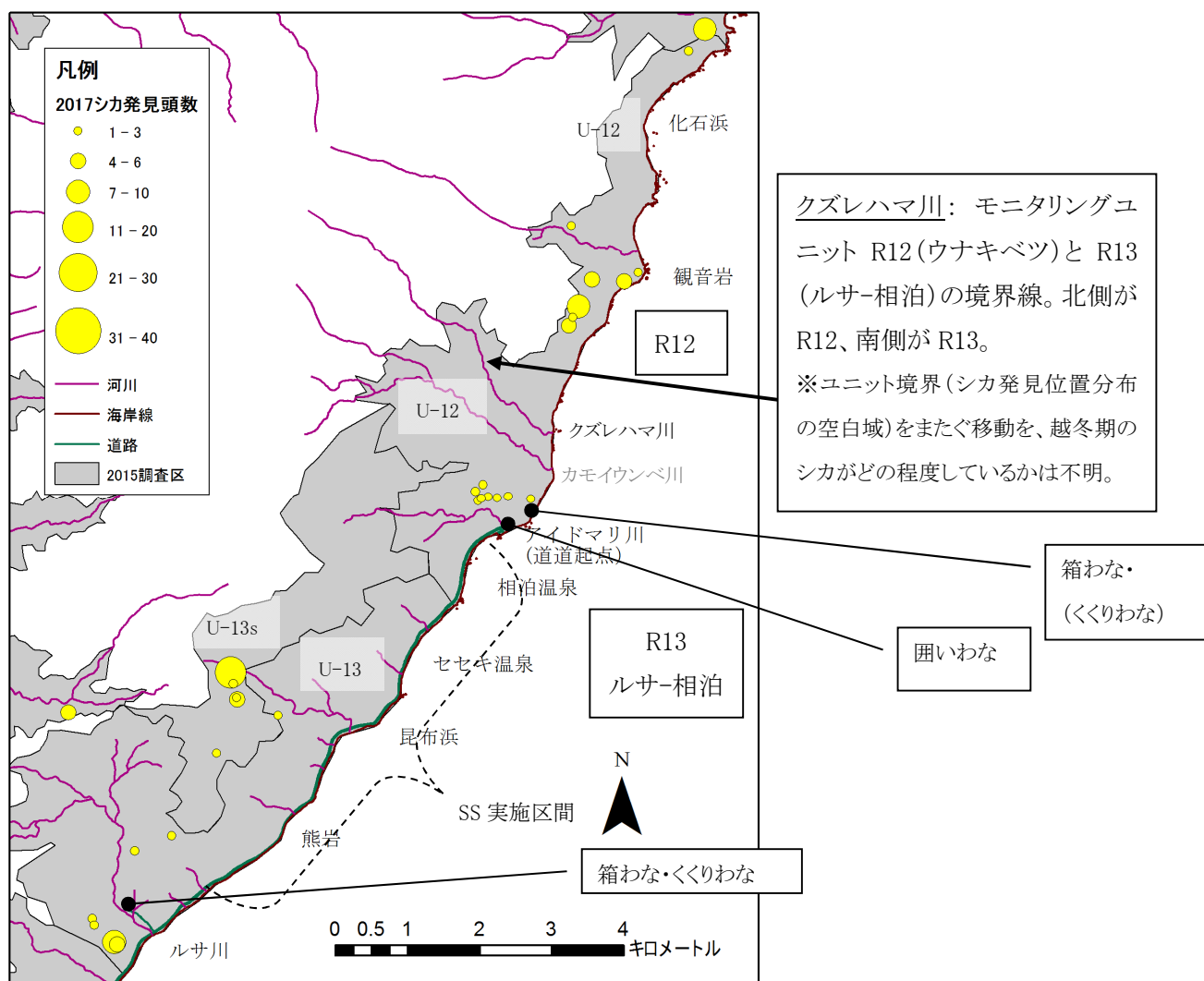


図 3-2-1-3. 2017 年航空カウント調査におけるエゾシカ発見位置 (U-12, 13, 13s = R12 + R13) ならびに H29 シカ年度シカ捕獲実施予定箇所。相泊温泉とセセキ温泉の間の尾根を境界線に北側調査区が U-12、南側が U-13、U-13 の北西側 (山側) が高標高調査区である U-13s。

2. 方針

- ・流し猟式シャープシューティング（以下、流し猟式SS）を再開。ただし、3～4月のみの実施とする。
 - ・ルサ囲いわなは撤去。相泊囲いわなを再設置。
 - ・ルサや相泊付近（崩浜南部）で、小型箱わなや、場所によりくくりわなを運用。
- ※相泊以北の船舶利用捕獲は、知床岬の厳冬期へリ捕獲と交代で隔年、またはそれ以上の間隔を開けての実施とする（シカのスレ防止など）。

※捕獲目標頭数合計：約80頭

3. 捕獲事業内容案

①. 囲いわなによる捕獲（再設置1）

- 期間： 12月～ 相泊囲いわな設置
1月初旬～ 囲いわなへの馴致・餌づけ。
1月中旬～3月下旬まで捕獲
3月下旬 わな撤去
- 実施候補地：アイトマリ川左岸(再設置)。
- 個別の課題：部外者による攪乱・事故の防止、道道通行止時の対応。
補助的に周辺(崩浜南部)で小型箱わな等の運用を試行(次項②参照)。
- 捕獲目標頭数：相泊約30頭（H27シカ年度実績）。

②. 小型箱わな・くくりわな

- 期間： 12月～ 箱わな設置(積雪が少ないうちに運搬)
1月初旬～ 餌づけ開始、わなへの馴致。
1月中旬～3月末まで捕獲
- 実施候補地：相泊囲いわなから約300m以上離れた位置～カモイウンベ川間の崩浜南部(新設)、ルサ川左岸周辺(再設置)。
- 個別の課題：箱わなとくくりわなの特性の違いに留意した設置、警戒心の高まり(場所の忌避)に配慮した配置、部外者による攪乱・事故の防止、道道通行止時の対応、止め刺し後の死体の運搬距離・運搬方法。
- 捕獲目標頭数：相泊付近約10頭、ルサ約10頭（H28シカ年度ルサくくりわな実績）。

③. 流し猟式SS

- 期間： 3月中旬～ 馴致・餌づけ
(シカが高標高へ移動中の2月～3月上旬は、餌づけも実施しない)
3月下旬～4月末、週1回程度、計4回程度捕獲を実施。

- 実施候補地：道道知床公園羅臼線沿い(北浜～相泊間 約 7km:従来の実施区間)
- 個別の課題：道路法面工事との調整、漁業者等への周知。
- 捕獲目標頭数：約 30 頭 (H27 シカ年度実績)。

C. 幌別-岩尾別地区

※第 3 期管理目標:モニタリングユニット S04 の約 29.08km²における航空調査による
エゾシカ発見密度を 5 頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- H28 シカ年度は幌別河口囲いわな (4 年目) で 19 頭、箱わな (1 年目) で 35 頭、岩尾別川河口の流し猟式 SS (4 年目) で 26 頭、岩尾別大型仕切柵 (4 年目) で 13 頭、岩尾別誘引狙撃 (1 年目) で 1 頭、百平米運動地作業道 SS (4 年ぶり 2 回目) で 8 頭、合計 102 頭を捕獲。
- H28 シカ年度の航空カウント数 (モニタリングユニット S04 = 航空カウント調査区 U04 西部 + U05 + U06 = 29.08 km²) は 134 頭。4.6 頭/km²となり、第 3 期管理目標を暫定的に達成済み。ただし局所的に高密度のエリアが残る (図 3-2-1-4)。
- 特に同地区西部の幌別 (U-06: 岩尾別川～幌別川左岸) は観光地 (フレペの滝、プユニ岬等) を含むため、大規模な銃捕獲の実施は困難。囲いわな設置適地もほとんど残っていない。
- 冬眠明けのヒグマによる攪乱等により、捕獲適期のピーク (3 月下旬～4 月初旬) に十分な捕獲を実施できていない。

岩尾別

- 大型仕切柵と岩尾別川河口の中間点付近に、年によって 60 頭程度の群れが残っている (図 3-2-1-4)。大型仕切柵への誘引はほとんど成功していない。
- 岩尾別川河口においては流し猟式 SS を 4 シーズン実施してきたが、地形等の条件が悪く、H23-24 シカ年度に道道沿いで実施していた流し猟式 SS と比較すると捕獲効率は相当低い。シカのスマート化が進んでおり、餌づけによる馴化が不十分で車両や餌場に接近してこないシカを遠距離狙撃せざるをえないパターンが増加している。

幌別

- 幌別川河口囲いわな (4 年目) の捕獲効率が大幅低下。プユニ岬周辺の追い出しカウントでは、わずか 0.75km² の狭い範囲に 141 頭のシカが確認された。針葉樹の被覆が多いため、航空カウント調査によるシカの発見率は低いが、依然高密度の越冬地となっている。

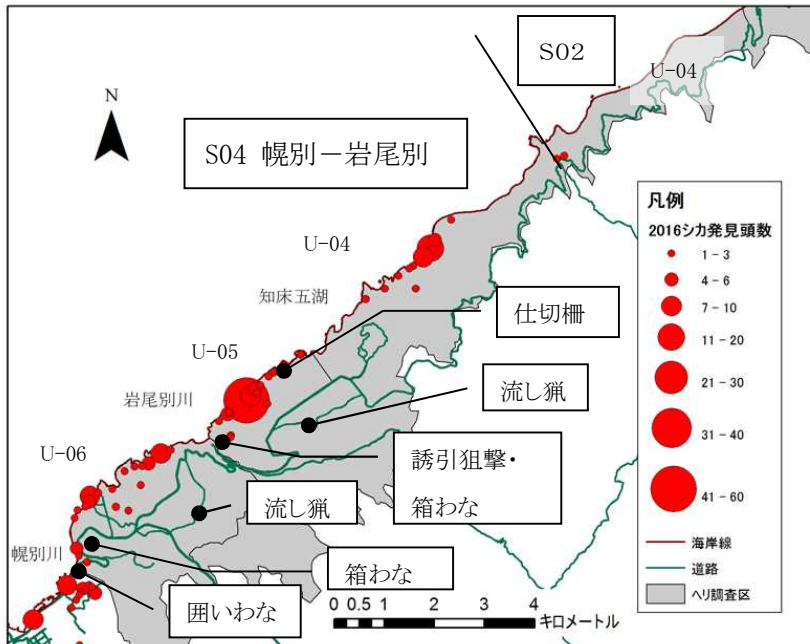


図 3-2-1-4. 2016 年航空調査時のエゾシカ発見位置 (U-04 西部, 05, 06 = S04) と H29 シカ年度の捕獲実施予定箇所. この年は岩尾別河口～大型仕切柵の中間点付近に大きめなシカ群が分布. 2017 年は岩尾別河口右岸に集中分布.

2. 方針

岩尾別

- ・岩尾別川河口～右岸台地上に集結する群れの捕獲に重点を置く。右岸台地上（崖上）の林内・林縁等に設置した複数の箱わなと、誘引狙撃等の組み合わせによる捕獲を行う。

幌別

- ・捕獲効率が大幅に低下した幌別河口囲いわなには、従来の大型のわなではなく、機動的で設置場所の制約が比較的少ない小型囲いわなを試行的に用いる。
- ・プユニ岬（見晴橋付近）周辺の林内に、前年より多く箱わなを設置する。

※捕獲目標頭数合計：約 85 頭（H28 シカ年度実績等を参考）

3. 捕獲事業内容案

岩尾別

①仕切柵を用いた大型囲いわな式捕獲（既設）

- 期間：12～4 月に餌付け・捕獲
- 実施候補地：岩尾別地区(海岸側ササ地)

- 仕様等： 大面積のササ地を仕切柵で囲い、囲いわなのようにして捕獲。落とし扉は手動操作。メール送信機能付自動カメラを設置し、捕獲を補助。低密度フェーズ下で数少ない捕獲機会を逃さないため、シンプルな運用で捕獲待機体制を維持する。なお、H28 シカ年度に生体搬出部が大きく破損したため、同部は撤去し、金網で穴を埋める。捕獲個体は原則銃による止め刺し後、死体で搬出する。
- 個別の課題： 撤去後の生体搬出部資材(単管・足場等)の活用(下記④および⑤の手法で使うハイタワーへの流用)。
- 捕獲目標頭数： 約 10 頭(H28 年度実績の 80%程度)

②小型箱わな（再設置・積雪期）

- 期間： 12 月に設置、1～3 月に餌付け・捕獲（手法②の誘引狙撃と並行して捕獲実施）
- 実施候補地： 岩尾別川河口のふ化場取り付け通路(約 0.6 km) 沿い、右岸の河畔林内、および右岸側崖上(台地上)の林内・林縁
- 個別の課題： 設置する箱わなの数、わなの設置位置とアクセスルート最適化、わな巡回・搬出の省力化、巡回・止め刺し・搬出にともなう攪乱が手法③の誘引狙撃へ与える影響、わなの移設頻度、移設距離
- 捕獲目標頭数 約 20 頭(H28 年度箱ワナ捕獲実績)

③車両を利用した誘引狙撃（流し猟式 SS）（積雪期）

- 期間： 1～3 月（1 月から餌付け、2 月から週 1 回程度捕獲）
- 実施候補地： 岩尾別ふ化場取り付け通路(約 0.6 km)
- 個別の課題： 低密度かつスマート化したシカ群の捕獲手法としての有効性、林内のシカの遠距離狙撃に適したライフル銃の導入
- 捕獲目標頭数： 約 20 頭(H28 年度実績の約 8割)

④待ち伏せ式誘引狙撃（残雪期）

- 期間： 3 月下旬～4 月 19 日（3 月から餌付け、週 1 回程度捕獲）
- 実施候補地： 岩尾別台地上
- 個別の課題： 低密度かつスマート化したシカ群の捕獲手法としての有効性、ハイタワー等の導入による射撃方向の安全性の確保、長時間の待ち伏せによる射手の肉体的・精神的負担の軽減、冬期通行止め区間の道道に立ち入るカメラマン等への周知。
- 捕獲目標頭数： 試行的要素が強いため設定せず

⑤発砲基準厳格化モバイルカリング（SS 的 MC、管理捕獲型流し猟）（無積雪期）

- 期間： 5～6 月(週 1 回程度捕獲)
- 実施候補地： 岩尾別台地上、しれとこ 100 平方メートル運動地内の作業道沿い

- 要素： 餌づけ誘引なし、スマートディアの追加発生を可能な範囲で回避するよう配慮、車両を利用、道路入口封鎖、往路で安全確認後に復路で捕獲実施、遠距離狙撃を考慮した銃の選択
- 個別の課題： 低密度かつスマート化したシカ群の捕獲手法としての有効性、どこまで少数群への発砲・全滅にこだわるか。
- 捕獲目標頭数： 試行的要素が強いため設定せず

幌別

①' 囲いわなによる捕獲（再設置1箇所・積雪期）

- 期間： 12月中に再設置、1～3月に餌づけ・捕獲
- 実施候補地： 幌別川河口（再設置・5年目）
- 個別の課題： わなの仕様。
- 捕獲目標頭数： 約15頭（H28年度実績の80%程度）

②' 小型箱わな（再設置・積雪期）

- 期間： 12月設置、1～3月に餌づけ・捕獲
- 実施候補地： 幌別台地上プユニ岬（見晴橋）付近の針葉樹林内4～5箇所
- 個別の課題： わな巡回・搬出の省力化、わなの移設頻度、移設距離
- 捕獲目標頭数： 約20頭（H28年度箱わな捕獲実績）

⑤' 発砲基準厳格化モバイルカリング（SS的MC、管理捕獲型流し猟）（無積雪期）

- 期間： 5～6月（週1回程度捕獲）
- 実施候補地： 幌別台地上、しれとこ100平方メートル運動地内の作業道沿い
- 個別の課題： 低密度かつスマート化したシカ群の捕獲手法としての有効性、どこまで少数群への発砲・全滅にこだわるか。
- 捕獲目標頭数： 試行的要素が強いため設定せず

4. H30 シカ年度以降の検討課題

- ・低密度かつスマート化したシカ群のより効率的な捕獲の進め方。最終手段の巻き狩り実施のタイミングなど。
- ・フレペの滝～ポロピナイ間（幌別台地上）の海側崖沿い草原地帯で越冬している群れの捕獲の進め方。複数箇所での小型箱わな、もしくは道路から離れた地点でのくくりわな捕獲の検討。メール送信機能付自動カメラ設置による管理の省力化。
- ・道路沿いや幌別園地付近等での麻醉銃・吹き矢による捕獲の検討。メス成獣を選択的に不動化し、少数ずつ利活用施設に移送する。4名程度で実施。冬期ではなく春期～秋期に長期間実施。実施

日時を固定せず、条件の良い時間と場所を現場で判断して実施。猟銃を使えないエリアのメス成獣を着実に減らす効果を期待。

表 3-2-1-1. H29 (2017) シカ年度 遺産地域内におけるエゾシカ捕獲事業 (案)

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
			シカ季節移動		← 流水期 積雪十分に →		← 猛禽繁殖期 →		シカ季節移動	
				← 岩尾別～五湖間道道冬期閉鎖 11月下旬～4月下旬 →						
モニタリング		↔ スポットライトセンサス (秋期集中)			← 航空カウント調査 (遺産地域内) →			↔ スポットライトセンサス (春期集中)		
A 知床岬	1. 流水期 ヘリ捕獲 中規模・宿泊1回					← 航空カウント後、宿泊ヘリ捕獲1回 →			↔ 死体回収	
	2. 海明け後 船捕獲 小規模・宿泊1～2回							↔ 残雪期・宿泊船捕獲1～2回		
B ルサ・相泊地区	1. 囲いわな (アイドマリ川河口 再設置) (ルサ川左岸 撤去)	設計、補修 など		↔ ワナ設置工事	← 馴致・餌付け →	餌付け+捕獲	↔ ワナ撤去			
	2. 小型箱わな・くくりわな (崩浜南部 新設) (ルサ川左岸 再設置)			↔ 箱ワナ設置	← 馴致・餌付け →	← 囲いわな・流し猟式SSの補助として運用 →				
	3. 流し猟式SS (北浜～相泊：道道知床公園羅白線)	← 路上発砲の 関係機関交渉 →					← 馴致・餌付け →	餌付け+捕獲	← シカ 道路法面に集中 →	
C 幌別・岩尾別地区	1. 仕切柵を用いた大型囲いわな式捕獲 ① (岩尾別台地上)		↔ 修繕		← 餌付け+捕獲 →				← シカ海食台地縁、道路法面に集中 →	
	2. 囲いわな ①' (幌別川河口 再設置)	設置交渉 ワナ設計		↔ ワナ設置	← 馴致・餌付け →	餌付け+捕獲	↔ ワナ撤去			
	3. 小型箱わな ② ②' (岩尾別川河口周辺・幌別ブユニ岬)			↔ ワナ設置		← 餌付け+捕獲 (適宜移設) →		↔ ワナ撤去		
	4. 誘引狙撃 ③ ④ (③積雪期 車両利用：岩尾別ふ化場通路、 ④残雪期 待ち伏せ式：岩尾別台地上)				← 馴致・餌付け →	← 餌付け+車両利用捕獲 →		↔ 馴致・餌付け	餌付け+待伏捕獲	
	5. SS的MC (管理捕獲型流し猟) ⑤ ⑤' (100平米運動地作業道)									← 捕獲 →